

Economic Indicators

定例経済指標レポート

テーマ：景気動向指数（2015年7月）の予測

発表日：2015年8月31日（月）

～足踏み状態から抜け出せず～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主席エコノミスト 新家 義貴
TEL:03-5221-4528

○前月差▲0.1ポイントを予想。足踏み状態継続

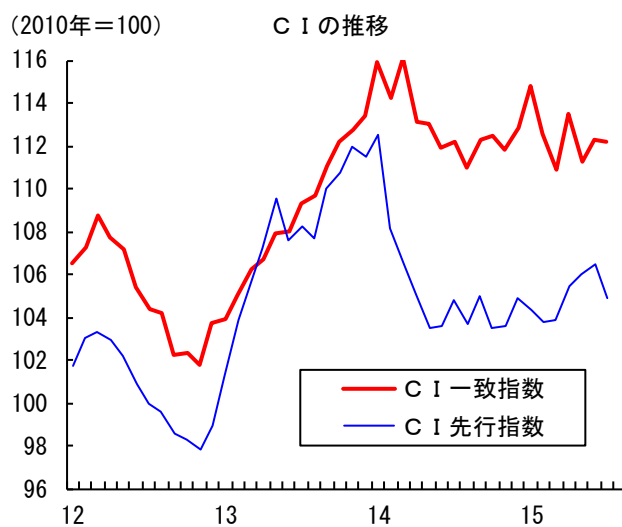
内閣府から9月7日に公表される2015年7月の景気動向指数では、C I一致指数を前月差▲0.1ポイントと予想する。前月からほぼ横ばいで、均してみても一進一退の足踏み状態にあると判断される。足元、C I一致指数が停滞していることは否めない。7月の内訳では、耐久消費財出荷指数や投資財出荷指数、有効求人倍率などがプラス寄与の一方、生産財出荷指数や鉱工業生産指数、卸売業販売額などがマイナス寄与で、全体としてはプラスマイナスがほぼ拮抗ということになる。

また、7月のC I先行指数は前月差▲1.6ポイントを予想する。内訳では、最終需要財在庫率指数や鉱工業生産財在庫率指数、新規求人数、M2などがプラス寄与の一方、住宅着工床面積や消費者態度指数、日経商品指数などのマイナス寄与が大きく、全体を押し下げた。先行C Iはこのところ持ち直し傾向にあったが、7月は改善がいったん足踏みとなっている。

15年4-6月期のGDPマイナス成長のほか、鉱工業生産も4-6月期に減産の上7月もマイナスと、足元の経済指標は全体的に冴えない状態が続いている。生産のほかにも、7月は個人消費や輸出の戻りが限定的なものにとどまるなど、7-9月期の改善が展望できる情勢にはなっていない。景気の足踏み感が解消されるには、まだ時間がかかりそうだ。

○基調判断は「足踏み」維持の見込み

内閣府によるC I一致指数の基調判断は、前月に続いて「足踏み」が維持される見込みである。「足踏み」の定義は「景気拡張の動きが足踏み状態になっている可能性が高いことを示す」である。足元の景気が停滞していることがここでも確認される。



(出所)内閣府「景気動向指数」

(注)直近の2015年7月は第一生命経済研究所による予測値